

海老名市ではどんな風水害が起こるの？

-  河川の浸水想定区域
-  土砂災害警戒区域
-  内水浸水想定区域

風水害編 (知識)



相模川が氾濫すると、海老名市の西側のほとんどが浸水の危険があるみたいや。

城山ダムの緊急放流等により相模川が氾濫するおそれがある場合には、市から**避難指示**を発令します。相模川の浸水想定区域内にお住まいの方は、市の東側の高台等の安全な場所へ早めに避難をしてください。



永池川

海老名市には相模川のほかに目久尻川・鳩川・永池川が流れていますが、これらの川沿いでも洪水による浸水被害が想定されます。



東側は標高が高くなっているや。相模川の洪水の影響は少なそうだけど…



急斜面が**土砂災害警戒区域**に指定され、大雨の時はがけ崩れの危険があります。



東柏ヶ谷など川沿い以外の住宅街でも内水の危険があるにや。

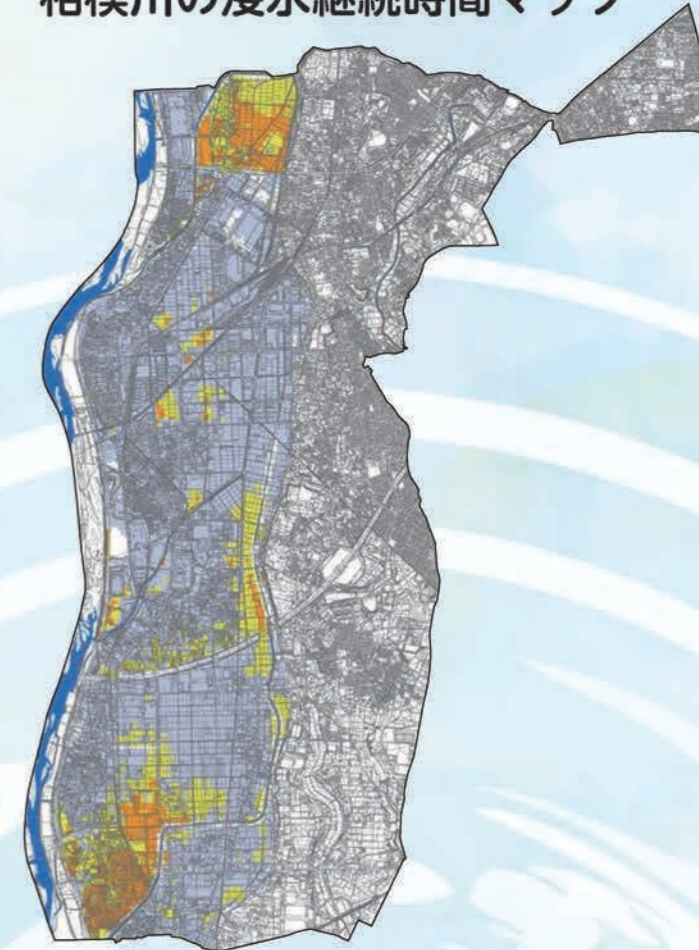





排水施設の能力を超える大雨や、河川の水位上昇によって雨水が排水しきれずに発生する内水による浸水も想定されます。



風水害編 (知識)

相模川の浸水継続時間マップ



-  12時間以内の区域
-  12時間～24時間未満の区域
-  24時間～72時間未満の区域

※浸水深が50cm以上になってから50cmを下回るまでの時間を示すもの

警戒レベルと避難情報

〈避難情報など〉

警戒レベル	市が発表する避難情報	市民のとりべき行動
警戒レベル5	緊急安全確保	既に災害が発生しており、命を守るための最善の行動をとる
警戒レベル4	避難指示	危険な場所から全員避難する
警戒レベル3	高齢者等避難	高齢者、障がい者等避難に時間のかかる人は避難する その他の人はすぐに避難できるように準備する
警戒レベル2	—	避難行動を確認する
警戒レベル1	—	災害の心構えを高める

避難指示が発令されたら必ず避難しないといけないのにかや？

対象の危険な区域に住んでいる人は避難してください。土砂災害の場合は、土砂災害警戒区域を対象に発令されるよ。区域内の方は避難してね。

高齢者等避難が発令された時は誰が避難すれば良いのにかや？

高齢の方や障がいのある方、乳幼児をお連れの方など避難に時間がかかる方は避難してね。その他の方は避難の準備をしてね。でも、危険を感じたときには早めに自らの判断で行動してね。



防災気象情報

大雨による危険が迫った場合、気象庁から「注意報」「警報」が発表されます。警報の基準をはるかに超える豪雨が予測され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合は、「特別警報」が発表されます。

※「特別警報」が発表されない場合でも、甚大な被害が発生する可能性があります。



大雨警報等の発表基準

種類	内容	
大雨特別警報	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予測され、もしくは数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想されるとき	
記録的短時間大雨情報	大雨警報発表中に、現在の降雨がその地域にとって災害の発生につながるような、まれにしか観測しない雨量であることを知らせるとき	
顕著な大雨に関する情報 (線状降水帯)	大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で実際に降り続けているとき	
警報	大雨警報	大雨による重大な災害が発生するおそれがあると予想したとき
	洪水警報	河川が増水し、重大な災害が発生するおそれがあると予想したとき
注意報	大雨注意報	大雨による災害が発生するおそれがあると予想したとき
	洪水注意報	河川が増水し、災害が発生するおそれがあると予想したとき
竜巻注意情報	積乱雲の下で発生する竜巻、ダウンバーストなど激しい突風に対して注意を知らせるとき	

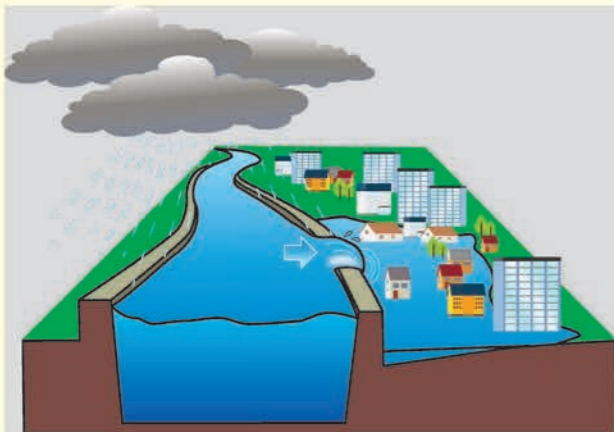
風の強さと吹き方

	やや強い風	強い風	非常に強い風	猛烈な風
風の強さと (速さの目安)	10～15 m/s (一般道路の自動車)	15～20 m/s	20～30 m/s	30～40 m/s 以上 (特急列車)
予報用語				
人への影響	風に向かって歩きのようになる	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出てくる	何かにつかまっていなくて立っていられない	屋外での行動は極めて危険

雨の強さと降り方

	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
時間の雨量と 予報用語	10～20mm 未満	20～30mm 未満	30～50mm 未満	50～80mm 未満	80mm 以上
雨のイメージ					
予報用語	ザーザーと降る。	どしゃ降り。	バケツをひっくり返したように降る。	滝のように降る。ゴーゴーと降り続く。	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。

洪水とは



河川の氾濫または堤防の決壊により発生する浸水。海老名市では西側を流れる相模川のほか、目久尻川、鳩川、永池川で大雨による洪水を想定している。河川ごとに想定雨量は異なり、30ページからのハザードマップでは、相模川では48時間雨量567mm、目久尻川で24時間総雨量398mm、鳩川で24時間総雨量326mm、永池川で24時間総雨量304mmをそれぞれ想定し、浸水被害予測を掲載している。

内水とは



排水施設の能力を超える大雨や河川の水位の上昇によって、雨水が排出されずに発生する浸水。河川周辺でなくても発生し、坂の下や一部低地になっているところでも発生する。海老名市では雨水の排水能力である時間雨量50mmを超えた時や、ゲリラ豪雨など局所的な大雨があった場合、小規模に起こる場合もある。30ページからのハザードマップでは、1時間雨量153mmを想定し、被害予想を掲載している。

土砂災害

土砂災害の種類と前兆

土砂災害とは、台風や集中豪雨等による長雨、大雨、豪雨または地震を原因として発生します。土砂災害は予想が非常に難しく、発生した場合は被害が大きいことがあげられます。

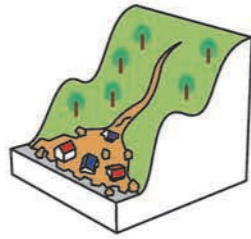


地すべり

緩やかな斜面で、滑りやすい地層に雨水がしみ込み、その影響で地面が動き出す現象です。

//////こんな前兆に注意!!//////

- ・雨が降り続けているのに、川の水が減る
- ・川が急に濁ったり、流木が混ざり始める
- ・木の裂ける音がする

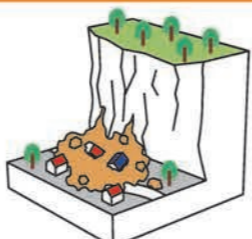


土石流

山腹や谷底の土砂や岩石等が集中豪雨などによって一気に下流へ押し流れ出る現象です。

//////こんな前兆に注意!!//////

- ・流水や池等が濁る
- ・木の騒ぐ音、裂ける音がする
- ・ひび割れ、段差ができる
- ・水が噴き出す
- ・道路などにひび割れ、電柱が傾く



急傾斜地の崩壊 (がけくずれ)

雨や地震などの影響によって土の抵抗が弱まり突然斜面が崩れ落ちる現象です。

//////こんな前兆に注意!!//////

- ・斜面がひび割れる
- ・小石がばらばら落ちる
- ・木が傾いたり倒れる
- ・湧水が止まる。または噴き出る

海老名市では急傾斜地の崩壊(がけくずれ)のみが対象となります

土砂災害警戒情報

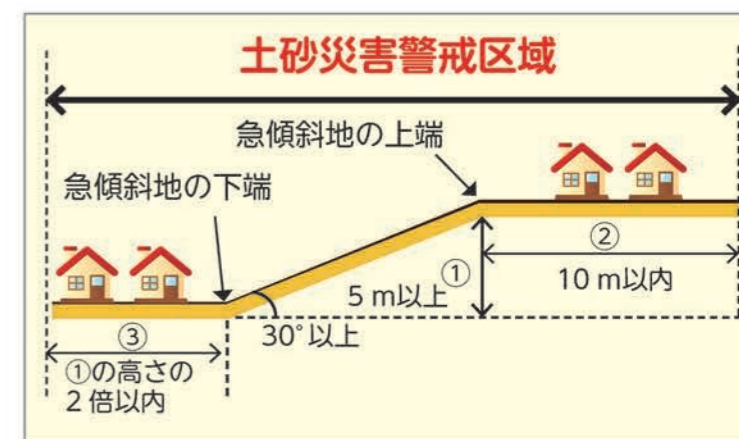
大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに、市町村長の避難指示や住民の自主避難の判断を支援するよう、対象となる市町村を特定して警戒を呼びかける情報で、都道府県と気象庁が共同で発表しています。



土砂災害警戒区域

急傾斜地は崩れ落ちるまでの時間が短く、住宅の近くでは逃げ遅れにより、人命を奪うことがあります。土砂災害ハザードマップ(31ページ~37ページ)で土砂災害のおそれのある区域をご確認ください。

- ① 傾斜度が30度以上で高さが5m以上の区域
- ② 急傾斜地の上端から水平距離が10m以内の区域
- ③ 急傾斜地の下端から急傾斜地の高さの2倍以内(50mを超える場合は50m)の区域



土砂災害から身を守るためには

1 土砂災害警戒区域の外に出る

土砂災害の前兆現象と思われるものがあるときや、不安を感じたら避難指示などがなくても早めに土砂災害警戒区域の外に出るようにしましょう。



2 何か起きてからでは避難できない

土砂災害は、そのスピードとパワーが凄まじいため、災害が起きてから避難しようとしても、間に合いません。雨が弱いうちに早めの避難行動をとりましょう。



3 避難する際には十分な注意を

夜間の避難は危険ですので、明るいうちに避難を完了できるようにしましょう。どうしても屋外への避難が困難な状況などやむを得ない場合には、斜面とは反対側の2階以上の部屋へ移動しましょう。

4 自らの身は自分で守る

ヘルメット等で頭を保護し、動きやすい長袖と長ズボンを着用しましょう。足元は普段から履き慣れた底が厚めの靴を履きましょう。



土砂災害警戒区域と土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域（通称：イエローゾーン）

土砂災害警戒区域とは、急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

■ 急傾斜地の崩壊（がけくずれ）

1. 傾斜度が30度以上で高さが5m以上の区域
2. 急傾斜地の上端から水平距離が10m以内の区域
3. 急傾斜地の下端から急傾斜地高さの2倍（50mを超える場合は50m）以内の区域

■ 土石流

土石流の発生のおそれのある溪流において、扇頂部から下流で勾配が2度以上の区域

■ 地すべり

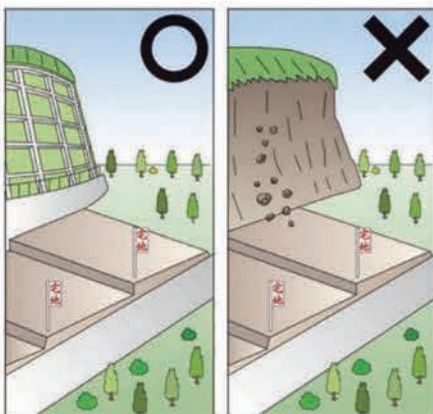
1. 地滑り区域（地滑りしている区域または地滑りするおそれのある区域）
2. 地滑り区域下端から、地滑り地塊の長さに相当する距離（250mを超える場合は、250m）の範囲内の区域

土砂災害特別警戒区域（通称：レッドゾーン）

土砂災害特別警戒区域とは、急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。

土砂災害特別警戒区域の制限

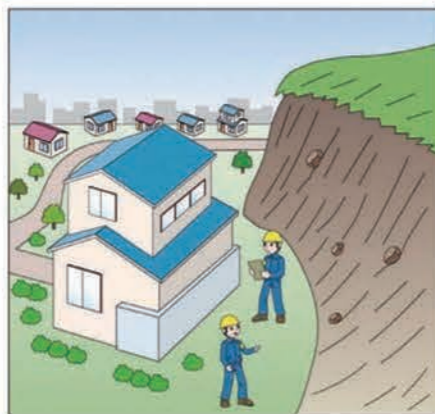
特定開発行為に対する許可制



住宅宅地分譲や要配慮者利用施設の建築のための行為は、基準に従ったものに限って許可されます。

【都道府県】

建築物の構造規制

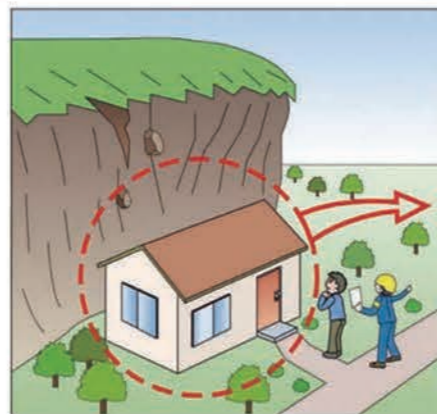


居室を有する建築物は、建築基準法に定められた、作用すると想定される衝撃等に対して建築物の構造が安全かどうか建築確認がされます。

【都道府県または市町村※】

※海老名市は県が所管

建築物の移転等の勧告



著しい損壊が生じるおそれのある建築物の所有者等に対し、移転等の勧告が図られます。移転等については、住宅金融支援機構の融資等の支援を受けられます。

【都道府県】

風水害に備える

屋外の備え

ベランダ

・植木鉢や物干し竿など、落下や飛散の危険はありませんか

プロパンガス

・倒れないようにしっかり固定していますか

玄関

・自転車や植木鉢等、出入りの支障となるものを置いてませんか

屋根・雨どい

・不安定なアンテナはありませんか
・トタンがめくけていませんか
・瓦のひび・割れ・はがれはありませんか
・雨どいにゴミや木の葉は溜まっていませんか

窓

・窓枠のがたつきはありませんか
・雨戸のがたつきはありませんか

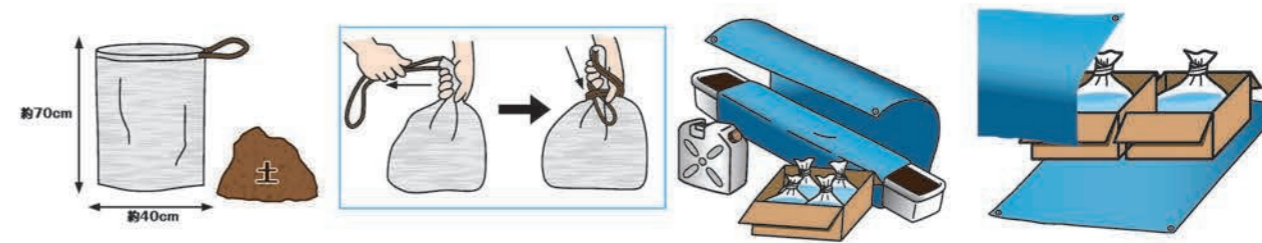
ブロック塀

・傾きやひび割れ、破損している箇所はありませんか

家庭でできる浸水対策

簡易水防工法

水深が浅い場合は、土のう（無い場合は水のう）を設置することで、建物への浸水を防ぐことができます。簡易的な措置として、植栽用プランターや石油用のポリタンク、長めの板（はしごやテーブルでも）等を、ビニールシートで包んで設置してもよいでしょう。道路よりも建物が低い場合や、地下室がある場合などは、止水板を設置しておく、より効果的です。



排水設備の点検・清掃

雨水ますや側溝の周辺にゴミがたまることで、雨水が流れず、浸水の危険性が高まります。地下や半地下では、排水ポンプの故障による浸水被害の危険もあります。定期的な排水設備の点検、排水溝や雨水ますにゴミや落葉がつかまっていないかなど確認を心がけましょう。

